

立命館大学大学院
2022年度実施 入学試験
博士課程前期課程

社会学研究科

応用社会学専攻

| 入試方式 | 実施月 | 社会学 | |
|-------------|-----|------|-------------|
| | | ページ | 備考 |
| 一般入学試験 | 9月 | P.1～ | 外国人留学生入試と共通 |
| | 2月 | P.6～ | 外国人留学生入試と共通 |
| 社会人入学試験 | 9月 | / | |
| | 2月 | / | |
| 外国人留学生入学試験 | 9月 | P.1～ | 一般入試と共通 |
| | 2月 | P.6～ | 一般入試と共通 |
| 学内進学入学試験 | 7月 | / | |
| | 9月 | / | |
| | 2月 | / | |
| APU特別受入入学試験 | 9月 | / | |
| | 2月 | / | |
| 飛び級入学試験 | 2月 | / | |

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

立命館大学大学院
2022年度実施 入学試験

博士課程後期課程

社会学研究科
応用社会学専攻

| 入試方式 | 実施月 | 社会学 | | 外国語(英語) | |
|------------|-----|------|-----------------------|---------|-----------------------|
| | | ページ | 備考 | ページ | 備考 |
| 一般入学試験 | 9月 | P.3~ | 社会人入試、 外国人留学生入試と共通 | P.4~ | 社会人入試、 外国人留学生入試と共通 |
| | 2月 | P.9~ | 社会人入試、 外国人留学生入試と共通 | P.10~ | 社会人入試、 外国人留学生入試と共通 |
| 社会人入学試験 | 9月 | P.3~ | 一般入試、 外国人留学生入試と共通 | | |
| | 2月 | P.9~ | 一般入試、 外国人留学生入試と共通 | | |
| 外国人留学生入学試験 | 9月 | P.3~ | 一般入試、社会人入試と 共通 | P.4~ | 一般入試、社会人入試と 共通 |
| | 2月 | P.9~ | 一般入試、社会人入試と 共通 | P.10~ | 一般入試、社会人入試と 共通 |
| 学内進学入学試験 | 9月 | | | × | |
| | 2月 | | | P.12~ | |

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

【2023年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程前期課程

社会学

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

| 研究科名 | 専攻名 | 課程 | 受験科目名 | 受験番号 | 氏名 |
|--------|-------------|------|-------|-------------|-------|
| 社会学研究科 | 応用社会学 専攻 | 前期課程 | 社会学 | 自分の 受験番号 | 自分の氏名 |

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 社会学 — (横書き)

問1 次の語句から 3つ を選択し、それぞれの内容について説明しなさい。

1. プロパガンダ
2. 親密性の専制
3. 世論／輿論
4. 血統主義／出生地主義
5. ケアの倫理
6. 移動の女性化
7. 日本型雇用慣行
8. クリエイティブ産業
9. 総合型地域スポーツクラブ
10. スペシャルオリンピクス
11. 階級と階層
12. 社会的事実
13. 社会的排除
14. イデオロギー
15. 参与観察
16. 企業スポーツ (とその意義)
17. 青い芝の会と障がい者解放運動
18. 社会的養護と健全育成
19. 有機的連帯
20. ケアマネジャー (介護支援専門員)

問2 次の問題から 1つ を選択し、10行以上 で、考えるところを論じなさい。

1. インターネット (インターネット社会) が民主主義に与える影響について論じなさい。
2. ある社会集団について論じる際にその集団内部の差異や多様性に目を向ける意義について具体的な例をあげながら論じなさい。
3. 印刷文化と想像の共同体の関係について論じなさい。
4. 世界では2022年5月末時点で、難民や国内避難民等、つまり故郷を追われて強制移動となった人々の数は1億人を超えている。諸外国の事例に触れながら、その対策について論じなさい。

問3 P・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』について論じた以下の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

本書（P・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』）は、イギリス中部の工業都市バーミンガムの北西ソーホーにあるセカンダリー・モダン・スクール（新制中等学校）でおこなわれたエスノグラフィーである。エスノグラフィーとは、聞き取りや参与観察によって特定の集団の人々の生き方を記述していく研究方法（民族誌）である。訳書の題名にもなっているハマータウンはソーホーの架空名である。調査校のセカンダリー・モダン・スクールは、進学中等学校（グラマー・スクール）とはちがった就職組のための中等学校である（現在では、このふたつの中等学校類型のほとんどはコンプリヘンシブ・スクール＝総合制中等学校に統合されている）。調査されたのは、1970年代前半である。

調査はいくつかの学校で実施されたが、分析の中心になったのは、そのなかのひとつのセカンダリー・モダン・スクールの「野郎ども」12名である。「野郎ども」といわれるのは労働者階級の子弟で学校教師を含めて権威に反抗する若者である。かれらの最終学年の2年間と就職後6カ月にわたるフィールド・ワークが分析されている。

労働者階級の子弟も、下級生の間はそのほとんどが従順な生徒であった。しかし、上級生になると、従順な生徒と反抗的な生徒に分岐していく。反抗的な生徒、つまり「野郎ども」の文化は、男尊女卑などの性差別、人種差別、喫煙・飲酒・セックスなどの享楽主義、厳しい肉体労働こそが「男らしい」とする筋肉主義が特徴である。権威との関係は、「やつら」（教師）と「おれたち」（野郎ども）として描かれる。

といっても、野郎どもは教師といつもあからさまに敵対するというわけではない。ふざけていても、勉強している連中の邪魔をしないようにして教師をおこらせないとか、手ごわい教師には反抗を控えめにするなど教師の性格や出かたしだいで対処法を編み出している。そういう対処法の案出が世故に長けているあかしとなる。

「野郎ども」は、同じ労働者階級の子弟でありながら、権威に従順で、向学校的・向学業的な生徒に「耳穴っ子」や「耳たぶっこ」という侮蔑呼称を投げつける。

（中略）

野郎どもは「耳穴っ子」を排除しているだけではない。「耳穴っ子」を軽蔑することで、自ら（野郎ども）の優位性を確証しているのである。ということは、野郎どもは、落ちこぼれてしまうのではなく、積極的に落ちこぼれを選択しているということである。

落ちこぼれを積極的に選択するのは、野郎どもが、かれらなりの学校社会の読みとり（「洞察」）をおこない、学校社会を自分たち流儀で読み換える（「異化」）からである。それはつぎのようなものである。

学校とは教師の手元に貯蔵された知識を、「尊敬」と「従順」のみかえりにすこしずつ受け取る空間である。そのために、今の貴重な時間を節約（犠牲に）してしまうことなのだ。そうした犠牲のうえで成績優秀や資格があたえられる。しかし、優秀な成績や資格によってあたえられる事務員仕事などは、野郎どもからすると、「女々しい」仕事である。であれば、「今」を犠牲にするよりも「今」を大切にしなければならない。将来のからだを張る筋肉労働者になるために優秀な成績や資格などなんの助けにもならない。教師を出し抜いたり、仲間とわるをするほうが自分たちの将来の仕事（筋肉労働）に役立つのだ。ここに反抗の逆説が生じる。

（中略）

野郎どもはメリトクラティックな価値、つまり、能力・業績による社会的地位の獲得の価値をなんら内面化してはいない。学校や教師に反抗し、下級ホワイトカラー職などの非筋肉労働職への上昇移動など考えもしない。むしろ逞しさ信仰によってこうした精神労働を「女々しい」ものとみなし、みずから積極的に苛酷な肉体労働を引き受けていく。ところがこうした反抗文化が「底辺」労働を引き受け、かえって社会的再生産をもたらしてしまうというのである。社会的再生産とは資本主義的生産様式の継続のために必要な階級間関係の反復である。本書の原題は「ラーニング・トゥ・レイバー」（learning to labour）、つまり「筋肉労働に馴染んでいくこと」である。「服従」が「拒否」（面従腹背）になりるように、「抵抗」が「加担」になるねじれを、対象によりそって描出していて、鮮やかである。

（出典：竹内洋『社会学の名著30』ちくま新書、2008年、一部改変）

1. 本文で言う「野郎ども」とはどのような人々か。彼らはいかなる価値観を有し、学校でどのように振る舞うのか。200字程度で、本文に即して答えなさい。

2. 下線部「反抗の逆説」とはどのようなことか。本文に即して、200字程度で説明しなさい。

【2023年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程後期課程

社会学

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

| 研究科名 | 専攻名 | 課程 | 受験科目名 | 受験番号 | 氏名 |
|--------|-------------|------|-------|-------------|-------|
| 社会学研究科 | 応用社会学 専攻 | 後期課程 | 社会学 | 自分の 受験番号 | 自分の氏名 |

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 社会学 — (横書き)

問1 次の語句から 4つ を選択し、それぞれの内容について説明しなさい。

1. プロパガンダ
2. 親密性の専制
3. 世論／輿論
4. 血統主義／出生地主義
5. ケアの倫理
6. 移動の女性化
7. 日本型雇用慣行
8. クリエイティブ産業
9. 総合型地域スポーツクラブ
10. スペシャルオリンピクス
11. 階級と階層
12. 社会的事実
13. 社会的排除
14. イデオロギー
15. 参与観察
16. 企業スポーツ (とその意義)
17. 青い芝の会と障がい者解放運動
18. 社会的養護と健全育成
19. 有機的連帯
20. ケアマネジャー (介護支援専門員)

問2 次の問題から 2つ を選択し、10行以上 で、考えるところを論じなさい。

1. インターネット (インターネット社会) が民主主義に与える影響について論じなさい。
2. ある社会集団について論じる際にその集団内部の差異や多様性に目を向ける意義について具体的な例をあげながら論じなさい。
3. 印刷文化と想像の共同体の関係について論じなさい。
4. 世界では2022年5月末時点で、難民や国内避難民等、つまり故郷を追われて強制移動となった人々の数は1億人を超过している。諸外国の事例に触れながら、その対策について論じなさい。

【2023年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻

外国語（英語）

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

| 研究科名 | 専攻名 | 課程 | 受験科目名 | 受験番号 | 氏名 |
|--------|---------|------|---------|---------|-------|
| 社会学研究科 | 応用社会学専攻 | 後期課程 | 外国語（英語） | 自分の受験番号 | 自分の氏名 |

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

一般的な英語辞書の持込を認めますが、辞書機能付の電子手帳等や情報通信機器の携行は認めません。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 外国語（英語） —（横書き）

以下は、ヤン・エルスターが文化と感情について論じた文章である。以下の問いに日本語で答えなさい。

(a) Are all emotions universal? If not, are there some universal emotions? I answer a firm yes to the second question, and a tentative yes to the first.

It seems clear that some emotions are universal. It is commonly claimed that there exist half a dozen emotions – happiness, surprise, fear, sadness, disgust, and anger – that have facial expressions people recognize across cultures. Although the claim has been challenged, historians and anthropologists offer persuasive behavioral evidence. ①If one believes, as I do, that social norms exist in all societies, the emotions that sustain them – contempt and shame – must also be universal. One might imagine a society in which people felt anger when offended, but no (Cartesian) indignation when they observed offenses toward a third party. I find it hard to believe that such a society could exist, but I may be wrong. If love is universal, would not jealousy be too?

It is said that the Japanese have an emotion, *amae* (roughly rendered as helplessness and a desire to be loved), which does not exist in other societies. It has also been argued that ancient Greece was a “shame culture” that differed from modern “guilt cultures,” that romantic love is a modern invention, and that the feeling of boredom (if that is an emotion) is of recent origin. ②One cannot exclude, however, that the allegedly absent emotions may have existed but not been conceptualized by members of the society in question. An emotion may be recognized as such by an external observer, but not acknowledged by the members of that society. In Tahiti, a man whose woman friend has left him will show the behavioral symptoms of sadness but will state only that he is “tired.” In the West, the *concept* of romantic love is a relatively recent one, dating from the age of the troubadours. Prior to that time, there was only “merry sensuality or madness.” Yet it is possible, and in my opinion likely, that the *experience* of romantic love occurred even when the society did not have the concept of that emotion. Individuals can be in love without noticing it, and at the same time their emotion may be obvious to observers, whether from their own society or from another. The ancient Greeks displayed a cluster of guilt-related reactions – anger, forgiveness, and reparations – that point to the presence of the emotion even if they did not have a word for it. ③The way people think about emotions may be culture specific, even if the emotions themselves are not.

One should add, though, that when a certain emotion is not explicitly conceptualized, it may also have fewer behavioral manifestations. La Rochefoucauld wrote that “some people would never have fallen in love if they had never heard of love.” Guilt, too, may be more common in societies where people are told from an early age that they ought to feel guilty on this or that occasion.

Used with permission of Cambridge University Press, from *Explaining social behavior: more nuts and bolts for the social sciences*, by Jon Elster, 2015; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

問 1 下線部①、②、③を和訳しなさい。

問 2 感情の普遍性について筆者が波線部(a)のように考えるのはなぜか。本文の記述に即して説明しなさい。

【2023年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程前期課程

社会学

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

| 研究科名 | 専攻名 | 課程 | 受験科目名 | 受験番号 | 氏名 |
|--------|-------------|------|-------|-------------|-------|
| 社会学研究科 | 応用社会学 専攻 | 前期課程 | 社会学 | 自分の 受験番号 | 自分の氏名 |

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 社会学 — (横書き)

問1 次の20の語句から3つを選択し、それぞれの内容について説明しなさい。

1. 社会福祉基礎構造改革
2. 社会関係資本
3. 存在と当為
4. 感情労働
5. ライフスタイルスポーツ
6. 職能給
7. 貧困線
8. 隠れたカリキュラム
9. 障害者雇用
10. ラベリング論
11. スポーツ・フォー・オール
12. 予言の自己成就
13. 沈黙の螺旋
14. 遊びの分類
15. 逸脱
16. 文字の文化
17. オピニオン・リーダー
18. メディア・イベント
19. エスノメソドロジー
20. 福祉多元主義

問2 次の4つの問題から1つを選択し、10行以上で、考えるところを論じなさい。

1. 社会学の固有の主題および学説史上の方法論について、両者を関連させて、論じなさい。
2. 外国人(移民)の社会統合に関する日本社会の現状や課題について論じなさい。
3. インターネット・コミュニティにおける集団関係について論じなさい。
4. 社会保障制度の提供に関する基本原則である選別主義と普遍主義という二つの異なる考え方について、それぞれがどのようなものであり、どのような社会的影響が生じるかを、論じなさい。

問3 以下の文章は、大企業の雇用システムをモデルとした戦後の「日本社会の『しくみ』」について論じたものである。それを読んだうえで、以下の問いに答えなさい。

日本もアメリカも、二〇世紀前半までは、雇用主や職長の気まぐれで〔工員・労働者の〕賃金や仕事内容が決められ、簡単に解雇される「野蛮な自由労働市場」だった。職員¹が身分的な特権を享受していた点も、身分の構成要因が違っていたとはいえ、あるていど共通していた。

それに対しアメリカの労働運動は、職務を記述書によって明確化し、同一の職務には同一の賃金を払うという「職務の平等」を志向した。一方で日本の労働運動は、職員の特権だった長期雇用と年功賃金を労働者にまで拡張させ、職員に昇進しうる可能性を開くという「社員の平等」を志向した。

その代償としてアメリカの労働者たちは、職務がなくなれば一時解雇されることを受け入れ、職員と現場労働者の間に階級的な断絶があることを受け入れた。一方で日本の労働者たちは、経営の裁量で職務が決まることを受け入れ、他企業との間に企業規模などによる断絶があることを受け入れたのである。

こうして、日本社会の「しくみ」は、労働者の合意を得て成立した。だが、そこで不利をこうむった社会層もあった。その一つは、高学歴の女性だった。彼女たちは、日本の労働運動の主力層、つまり比較的学歴の低い中高年の現場労働者とは、いわば対極に位置していた。

敗戦後の国鉄²労働者たちは、「努力」と「経験」を評価せよと要求した。そして彼らは経営者側と、一つの企業内での勤続年数の重視という形で、ある種の妥協ないし合意を築いた。これが結果として、高学歴女性に不利な慣行を、定着させたことは想像に難くない。

そうしたマイナス面がありながら、なぜこのような「しくみ」が定着していたのか。それは、マイナス面を含めた社会的合意が成立していたからである。

どこの社会の「しくみ」も一つの構造を持ち、プラス面とマイナス面を持っている。その理由は、労働者は労働者の利益を追求し、経営者は経営者の利益を追求したからだ。片方にとってのプラス面は、しばしば相手にとってのマイナス面である。だから、両者の交渉と妥協を経て定着した慣行は、常にマイナス面とプラス面を含んだ合意になるのだ。

それでは、日本の「しくみ」のプラス面とは何だったか。

日本型雇用が現場労働者レベルにまで広がったのは、戦後日本の民主化と労働運動の成果だった。日本の労働運動が求めたのは、比較的学歴の低い中高年の現場労働者に、長期雇用と年功賃金、そして昇進の可能性を与えることだった。

これを一定ていど実現し、全員を「社員」としたことは、他国にない特色となった。これが製造現場の社内訓練による技能蓄積を高め、日本製造業の躍進を支えたことは、経済学者からも評価されている。そしてこれが、「ものづくりの国」を支えたばかりでなく、格差が比較的少ない社会、現場労働者までもが勤労意欲の高い社会を築くのに貢献したといえる。

とはいえこれは、経済効率のために導入された慣行ではなかった。労働運動が職員・工員³を混合した企業内組合が中心で、しかもその主力を担ったのが現場労働者だったから定着した慣行であり、それが結果として経済的にも合理的に機能したのである。

もちろんこの「しくみ」は、幾多のマイナス面を持っていた。当時は少数のマイノリティだった高学歴女性は、いわば社会的に排除された。学歴競争も激しく、「大企業型」⁴と「地元型」⁵の格差も大きかった。

運動は制度を作る。だが、他の諸勢力との妥協や交渉を経てどんな制度ができるか、その制度がどんな効果を生むかまでは、必ずしも当事者たちは予測できない。「職務の平等」を志向したアメリカの労働運動は、意図せざる結果として横断的労働市場を作り出したが、同時に細分化された単調な職務による疎外感を生み、学位による競争や格差をもひきおこした。「社員の平等」を志向した日本の労働運動は、意図せざる結果として勤労意欲と技能蓄積の高い企業を作り出したが、同時に従業員どうしの過当競争を生み、「正規」と「非正規」の二重構造をもひきおこしたのである。

(出典：小熊英二『日本社会のしくみ』講談社現代新書、2019年、一部改変)

注1) 職員：長期雇用や年功賃金が保証され、昇進の道が開けているホワイトカラー層

注2) 国鉄：日本国有鉄道。現在のJR各社の前身

注3) 工員：製造現場での労働に携わるブルーカラー層

注4) 大企業型：大学を出て大企業や官庁に雇われ、正社員・終身雇用の人生を過ごす人たちやその家族の生き方

注5) 地元型：地元の中学・高校を経て、地元で農業、自営業を営むか、地方の役場、建設業、地場産業で働く人々の地元密着の生き方

1. 下線部「野蛮な自由労働市場」について説明したうえで、それに対して日本とアメリカとでは、労働運動における対応の仕方がどう異なっていたのかを、おおよそ200字程度でまとめなさい。
2. 本文に記されている日本社会の「しくみ」（日本型雇用）とは、どのようなものか。それは、いかなるプラス面とマイナス面をもたらしたのか。200字程度でまとめなさい。

【2023年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程後期課程

社会学

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

| 研究科名 | 専攻名 | 課程 | 受験科目名 | 受験番号 | 氏名 |
|--------|-------------|------|-------|-------------|-------|
| 社会学研究科 | 応用社会学 専攻 | 後期課程 | 社会学 | 自分の 受験番号 | 自分の氏名 |

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 社会学 — (横書き)

問1 次の20の語句から4つを選択し、それぞれの内容について説明しなさい。

1. 社会福祉基礎構造改革
2. 社会関係資本
3. 存在と当為
4. 感情労働
5. ライフスタイルスポーツ
6. 職能給
7. 貧困線
8. 隠れたカリキュラム
9. 障害者雇用
10. ラベリング論
11. スポーツ・フォー・オール
12. 予言の自己成就
13. 沈黙の螺旋
14. 遊びの分類
15. 逸脱
16. 文字の文化
17. オピニオン・リーダー
18. メディア・イベント
19. エスノメソドロジー
20. 福祉多元主義

問2 次の4つの問題から2つを選択し、10行以上で、考えるところを論じなさい。

1. 社会学の固有の主題および学説史上の方法論について、両者を関連させて、論じなさい。
2. 外国人（移民）の社会統合に関する日本社会の現状や課題について論じなさい。
3. インターネット・コミュニティにおける集団関係について論じなさい。
4. 社会保障制度の提供に関する基本原則である選別主義と普遍主義という二つの異なる考え方について、それぞれがどのようなものであり、どのような社会的影響が生じるかを、論じなさい。

【2023年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻

外国語（英語）

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

| 研究科名 | 専攻名 | 課程 | 受験科目名 | 受験番号 | 氏名 |
|--------|---------|------|---------|---------|-------|
| 社会学研究科 | 応用社会学専攻 | 後期課程 | 外国語（英語） | 自分の受験番号 | 自分の氏名 |

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

一般的な英語辞書の持込を認めますが、辞書機能付の電子手帳等や情報通信機器の携行は認めません。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 外国語（英語） —（横書き）

以下は、集合的意思決定 (collective decision making) を構成する、議論 (arguing)、交渉 (bargaining)、投票 (voting) という三つのモードについて述べた文章である。以下の問いに日本語で答えなさい。

Mixed arguing and bargaining, without voting, is illustrated by collective wage bargaining. ① When a union and management are deciding how to divide the income of the firm, it might appear as if only bargaining is taking place. On closer inspection, however, there is always a substantial amount of arguing about factual matters, such as the financial well-being of the firm and the productivity of the labor force.

Mixed bargaining and voting was institutionalized in the British Wages Councils and Boards in the 1950s. ② The possibility of a vote shaped wage bargaining even though in most cases no vote took place. The crucial factor was the presence at the bargaining table of an uneven number of independent members, along with equal numbers of members representing employers and workers. The first group served both as a mediator between the two others in the course of the bargaining process and, by virtue of their uneven number, as a guarantee that the wage would be settled by a decisive vote if no negotiated agreement was reached.

Political decision making, whether by a committee, an assembly, or the population at large, often involves all three procedures. Again, this fact follows from the need to reach a decision sooner rather than later. Voting tends to arise when an issue has to be decided urgently, so that the participants do not have the time to deliberate until they reach unanimity*1. More prosaically, they may not be motivated to search for unanimity. If the decision is more urgent for some participants than for others, the possibility of bargaining also arises, since those who can better afford to wait may demand concessions in exchange for an early decision. In standing committees and assemblies, bargaining also arises through logrolling*2, which is due to unequal intensity of preferences over the issues to be traded off against each other. Other bargaining mechanisms in legislatures include filibustering, endless amendments, and “the politics of the empty chair” by which a group may exploit the rules of quorum to obtain what they could not achieve by other means.

In such cases, the sources of bargaining power are created within the assembly itself. In other cases, the decision makers can draw on resources that exist independently of the assembly – money and manpower. In 1789, the debates in the French constituent assembly were suspended between the king’s troops and the crowds in Paris. In 1989, the quasi-constitutional or preconstitutional Round Table Talks in Poland were suspended between the threat of Soviet intervention and the prospect of a general strike and economic paralysis. If a vote cannot be bought with the promise of another vote, as in logrolling, it can be bought with money, for instance, with the allocation of party funds for purposes of reelection campaigning.

③As will be clear from this discussion, the three modes of collective decision making may be seen as three steps in an idealized sequence, in the sense that each of them arises naturally from the preceding one. Although arguing intrinsically aims at unanimity, in the sense that it is based on reasons that are supposed to be valid for all, this end is rarely achieved. To settle the issue, voting is needed. Because voting often takes place among individuals who have many issues to decide on, it naturally gives rise to bargaining in the form of logrolling.

出典 : Used with permission of Cambridge University Press, from *Explaining social behavior : more nuts and bolts for the social sciences*, by Jon Elster, © 2015; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

*1.unanimity...全会一致

*2.logrolling...丸太転がし。ここでは、政治家間で行う相互取引・相互協力を指す

問1 下線部 ①、②、③を訳しなさい。

問2 点線部では、意思決定をより早く行う必要性について書いているが、なぜ意思決定を急ぐ場合にそれぞれのモードが発生するのか。voting と bargaining の場合について書きなさい。

【2023年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻

外国語（英語） 学内進学

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

| 研究科名 | 専攻名 | 課程 | 受験科目名 | 受験番号 | 氏名 |
|--------|---------|------|---------|---------|-------|
| 社会学研究科 | 応用社会学専攻 | 後期課程 | 外国語（英語） | 自分の受験番号 | 自分の氏名 |

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

一般的な英語辞書の持込を認めますが、辞書機能付の電子手帳等や情報通信機器の携行は認めません。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 外国語（英語） —（横書き）

以下は、集合的意思決定 (collective decision making) を構成する、議論 (arguing)、交渉 (bargaining)、投票 (voting) という三つのモードについて述べた文章である。以下の問いに日本語で答えなさい。

Mixed arguing and bargaining, without voting, is illustrated by collective wage bargaining. ① When a union and management are deciding how to divide the income of the firm, it might appear as if only bargaining is taking place. On closer inspection, however, there is always a substantial amount of arguing about factual matters, such as the financial well-being of the firm and the productivity of the labor force.

Mixed bargaining and voting was institutionalized in the British Wages Councils and Boards in the 1950s. ② The possibility of a vote shaped wage bargaining even though in most cases no vote took place. The crucial factor was the presence at the bargaining table of an uneven number of independent members, along with equal numbers of members representing employers and workers. The first group served both as a mediator between the two others in the course of the bargaining process and, by virtue of their uneven number, as a guarantee that the wage would be settled by a decisive vote if no negotiated agreement was reached.

Political decision making, whether by a committee, an assembly, or the population at large, often involves all three procedures. Again, this fact follows from the need to reach a decision sooner rather than later. Voting tends to arise when an issue has to be decided urgently, so that the participants do not have the time to deliberate until they reach unanimity*1. More prosaically, they may not be motivated to search for unanimity. If the decision is more urgent for some participants than for others, the possibility of bargaining also arises, since those who can better afford to wait may demand concessions in exchange for an early decision. In standing committees and assemblies, bargaining also arises through logrolling*2, which is due to unequal intensity of preferences over the issues to be traded off against each other. Other bargaining mechanisms in legislatures include filibustering, endless amendments, and “the politics of the empty chair” by which a group may exploit the rules of quorum to obtain what they could not achieve by other means.

In such cases, the sources of bargaining power are created within the assembly itself. In other cases, the decision makers can draw on resources that exist independently of the assembly – money and manpower. In 1789, the debates in the French constituent assembly were suspended between the king’s troops and the crowds in Paris. In 1989, the quasi-constitutional or preconstitutional Round Table Talks in Poland were suspended between the threat of Soviet intervention and the prospect of a general strike and economic paralysis. If a vote cannot be bought with the promise of another vote, as in logrolling, it can be bought with money, for instance, with the allocation of party funds for purposes of reelection campaigning.

③As will be clear from this discussion, the three modes of collective decision making may be seen as three steps in an idealized sequence, in the sense that each of them arises naturally from the preceding one. Although arguing intrinsically aims at unanimity, in the sense that it is based on reasons that are supposed to be valid for all, this end is rarely achieved. To settle the issue, voting is needed. Because voting often takes place among individuals who have many issues to decide on, it naturally gives rise to bargaining in the form of logrolling.

出典 : Used with permission of Cambridge University Press, from *Explaining social behavior : more nuts and bolts for the social sciences*, by Jon Elster, © 2015; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

*1.unanimity...全会一致

*2.logrolling...丸太転がし。ここでは、政治家間で行う相互取引・相互協力を指す

問1 下線部 ①、②、③を訳しなさい。